

第 26 章 戦争で捕えられたメシーカの捕虜たちのうち、チャルコ人たちがメシーカの捕虜たちの王に担ぎ上げて、彼らに対して一地区を与えようとしたが、有力者トラカウェパンはそれを拒んだこと、むしろ然るべき日に儀礼を行って、死を選んだことを扱う。

チャルコ人たちは、彼らの主要都市であるトラルマナルコに到着すると、クアテオトルとテオシウテウクトリの前に〔捕虜たちを〕連れてきた。その捕虜たちの中に、トラカウェパンというメシーカの有力者を見た彼らは、声を上げて「いや、死んでいないぞ。メシーカが言う通りだ。これは、トラカウェパンだ」と言った。そして、彼らは協議した上で、この有力者を殺さずに、むしろメシーカ人たちが殺すことなく、トラカウェパンが彼らの王となり、他の者たち全員と共に、一地区を任せることにした。これを知ったトラカウェパンは、チャルコの長老議会の全員の前で、微笑んで、こう語った。「お前たちと、お前たちの浅はかな考えは笑止なことである。この身体と頭、腕と脚、そしてここに集うメシーカの同胞たちの身体と頭、腕と脚は、何のために自分たちの土地を出たと思うのだ？ 領主になるためではないぞ。まさにその戦場で身を危険にさらし、あらゆる他の者たちの支配者となり、お前たちをまさに戦場と戦争において殺すためであり、お前たちの思うところと同じだ。今、我が身はお前たちの手中にある。お前は領主であり、そのことを己惚れるのだから、我は同志たちとゆっくりとしたい。それから、20 ブラサ<sup>1</sup>を超える高さの、とても大きな丸太の木を持ってきてほしい。我が同胞たちとともに、悠々と踊り歌いたいのだ。そして、大木を運ぶときに、太鼓とテポナストレ〔テポナストリ〕を持ってきてほしい。より一層の栄光をもって、我が生と死を迎え入れるためにだ。」それを聞いたチャルコ人たちは、20 ブラサを超える高さのある木を運び、そしてその先端から 2~3 エスタード<sup>2</sup>の所に、ナオ船<sup>3</sup>の水先案内人たちが立つような、4 枚の板でできた櫓を作った。<sup>4</sup>そして、それを運んで、先端近くで抱きかかえ、それを打ち込むための穴を作り、「高く掲げよ」と言った。そして 400 人以上のチャルコ人のインディオたちで大木を持ち上げ、地面に突き刺して立てると、テポナストレ〔テポナストリ〕と、トラルパンウェウエトルを持ってくるように言った。これは、今日、広場で踊る

---

<sup>1</sup> 約 33m。

<sup>2</sup> 約 3~5m。

<sup>3</sup> las naos. この時代に即さない、スペイン人の大型帆船（キャラック船）を用いた直喩。

<sup>4</sup> この場面を扱う『トバル絵文書』11 頁では文中と同じ 4 枚の板を繋げた高台がみられる。

黒人たちが使う太鼓のようなもので、これに伴う鳴り物〔テポナストリ〕は、丸く、真ん中でほぼ半分に分かれて、中は空洞、長さは1バーラ<sup>5</sup>程である。鳴らすには、2本の短い棒を使い、その棒の先端には、川か海の中から採取した、彼らがウリ<sup>6</sup>と呼んでいる、黒く散らばる糖蜜のようなものを振りかけていた。そして、メシーカ人たちが、低く、哀愁を帯びた彼らの歌を奏で始めると、トラカウエパンは〔柱の上の〕高所からこう言った。「チャルコの諸君、今日、我はお前らを我が奴隷として買った。つまり、お前らは、メシーカである我らの末代に仕え、貢納せねばならない。そして、我がお前らに言っていることは、そのうちわかるだろう。これは、誠となるであろう。」チャルコ人たちは、長老議会の全員が、彼らの正式な王にたてようとしているとして、彼に話を聞くように促した。トラカウエパンは彼らを笑い飛ばし、メシーカ人たちに「我が兄弟や友人たち、歌を続けるのだ」と言った。そして、チャルコ人たちが自分たちの末代まで実際に隷属するであろうと、再び告げた。そして、柱の先端に登りメシーカ人たちに向って、こう言った。「さあ、行くぞ、我を待ち構えよ、メシーカたちよ。」そしてその高所から身を投げ、地面に落ちて、砕け散った。すぐさま、チャルコ人たちはその遺体を集めて、彼らの偶像があるク〔ピラミッド神殿〕へ持っていった。また、メシーカ人全員の手を縛り<sup>7</sup>、クへ連れて行った。チャルコの領主たちの間では、大騒ぎとなった。「トラカウエパンが我らに対して、何をしたのだ、何を言ったのだ？我ら全員を死の眠りにつかせたのか？我らは打ち負かされ、メシーカの奴隷や臣下となってしまうのか？いや、そんなことはない。我らは、我らの神であるカマシュトリに、メシーカたちとトラカウエパンの遺体を生贄に捧げた。それから、我らはメシーカに対して仕掛けた戦いを続けるのだ。メシーカは殺されたり捕虜にされたりしたことを怒り、猛然と我らに襲い掛かってくるであろうから。」この状況で、メシーカ人たちは、捕虜となった者たちや死者たちに起きた忌まわしきことを知った。モンテスマ王は、トラカエレルツィン・シワコアトルを呼んで、こう言った。「我らの兄弟でメシーカの有力者トラカウエパンの死、そしてチャルコの手により死んだ、我らの兄弟チャワクエとケツァルクアウ、そして彼らと共にいたテヌチティトランのメシーカたちの死のことは、すでに知っているはずだ。そして今、我らは再びチャルコと戦わなければならぬまい。彼らは、死者の血で、彼らとその土地に対する死に隣り合わせの戦と死

<sup>5</sup> 長さの単位。およそ 83.5cm。

<sup>6</sup> ここの意味では、れきせい。

<sup>7</sup> 原注 57 人差し指を伸ばした手。〔印の書き込み〕

をわが物とするのだ。」このことを知った有力者たちや武将のトラアカテウトルとトラコチカルカトルは、翌朝、あらゆる武具、虎、鷲、ライオンの皮を着て全員が集まるように知らせた。彼らは「兄弟たちよ、今しかない」と伝えた。そうして、彼らは、あらん限りの騒音と叫び声を上げて、猛々しく、チャルコ人の主要都市であるトラルマナルコ、そしてウェショシンゴ、 Cholula まで半レグア<sup>8</sup>の、ココティトランという場所にまで到達した。そして、イツテパンテペク [イツタパルテペク]<sup>9</sup>に到着すると、老モンテスマ王は臣下たちに「急襲し、夜明けに彼らを攻め、チャルコ人<sup>10</sup>が生きながらえないようにするには、どこで夜を過ごすべきか」と言った。そしてこのために、モンテスマ王とシワコアトルは、この状況下では、誰もメシコへは戻らず、チャルコの地で、死ぬか、勝利を収めるかのどちらだと命じた。「それから、泥砂を我らの身体に塗るのだ。これからはもう、我らの父や母、兄弟、妻、子や一族の者たちも思い出しはしない。これらの悪しきチャルコの手により、酷い死に方をした主たる兄弟や一族の者たちの死を乗り越えるためである。このことに心を痛めよ。というのも、トラカウェパン、チャワクエ、ケツアルクアウといった武将たち<sup>11</sup>は、他のメシーカたちと並び、勇敢であったのだから。そうして、我らは、もはやここにいるのだから、泥砂を身体に塗り始めよう。その後、荷物をまとめ、12人か20人の使者を手配せよ。」それから、ココティトランとイツタパルテペクに、自分たちの陣営を張り、野営や小屋を建て始めた。そして斥候たちといた彼らは、真夜中に一羽の梟が啼くのを聞いた。<sup>12</sup>そして梟は「テコロトコ、ココ。ティアカ [不吉な梟だ、<sup>ティアカウ</sup>勇者]」と囀った。<sup>13</sup>こう二度囀ってから、「ノクネ！ノクネ！ [悪者！悪者！]」 [と続けた]。<sup>14</sup>それから梟は「テコロ・ココ。テテク・ヨロ、ヨロ [不吉な梟だ。

<sup>8</sup> 約 2.8km。

<sup>9</sup> チャルコ領内の地名（地点不明）。

<sup>10</sup> *chalcatl* チャルコ人を指すヘンティリシオ(*gentilicio*)。

<sup>11</sup> 原注 58 3 [数字の書き込み]

<sup>12</sup> 原注 59 人差し指を伸ばした手。予兆。[印およびスペイン語の書き込み]

<sup>13</sup> 原注 60 “*Tecolotl* <c>oco<c>, *coco* <c>. *Tiaca* <uh>.” 「テコロト (ル)・(コ) コ (ク)・ココ (ク)、ティア (カウ)。」「不吉な、不吉な梟。勇者。」(編注) 語彙集によれば、テコロココ (*Tecolococo*) は梟を意味するテコロトル (*tecolotl*)、凶兆を意味するココ (*coco*) からなる複合語。続くティアカ (*Tiaca*) の説明として、人を嘲ったりからかったりする際に用いる語とある。この説明に基づけば、ティアカを仮に「ばーか」といった試訳の方向性もあるのではないか。今回は原注に基づき勇者 (*Tiaca*) という訳を充てている。

<sup>14</sup> 原注 61 「ああ、ピカロ (*pícaro*)! ああ、ピカロ!」(編注) 語彙集におけるノクネ (*Nocne*) の説明として、蔑称に用いる語とある。ティアカとの対応から悪者とした。

切る、心臓、心臓]」と二度繰り返して囀った。<sup>15</sup>梟は「テコロ・ココ。ケチテポ  
ル・チチル、ケチテポル・チチル。チャルコ、チャルコ [不吉な梟だ。首、赤い、  
首、赤い。チャルコ、チャルコ]」と三度繰り返して囀った。<sup>16</sup>そして、「トライ  
ロトラク・イン<sup>17</sup>・シワコアトル・トラカエレルツィン」と囀った。これに対し  
て、メシーカの武将トラカエレルツィンは、彼の同胞たちへ「兄弟たちよ、この  
予兆の鳥が言うことがわかるか」と応じた。そして、メシーカ人たちは、チャル  
コとその地区の名を挙げていたと答えて言った。トラカエレルツィンは「さあ、  
兄弟よ、勇敢な心を奮い立たせよ。これは梟が言ったのではなく、お告げなのだ」  
と応じた。そうして、彼らは勇敢に立ち上がった。

【訳：岡崎雅子 2026/03/11】

---

<sup>15</sup> 原注 62 “Tecolo<tl> coco<c>. Tetec yollo<tl>, yollo<tl>.” 「テコロ (トル)・ココ (ク)、テテ  
ク・ヨロ (トル)、ヨロ (トル)。」「不吉な梟、切られた心臓、心臓。」(編注) 語彙集によれ  
ば、テテクヨロ(Tetecyollo)は字義的には心臓を取り出すこと。

<sup>16</sup> 原注 63 “Tecolo<tl> coco<c>. Quechtepol<li> chichil<tic>, quechtepol<li> chichil<tic>. Chalco,  
Chalco.” 「テコロ (トル)・ココ (ク)、ケチテポル (リ)・チチル (ティク)、ケチテポ  
ル (リ)・チチル (ティク)。チャルコ、チャルコ。」「不幸な梟。赤い首、赤い首。チャルコ、チ  
ャルコ。」(編注) 語彙集によれば、ケチテポルチチル(Quechtepolchichil)は字義的には赤い首、  
即ち斬首。

<sup>17</sup> yn 意味を持たない接辞。